

奨学金受賞者決定

入学時成績優秀者奨学金・研究奨励賞・桜蔭会研究奨励賞授与式

4月25日、本学独自の奨学金のうち「入学時成績優秀者奨学金」「お茶の水女子大学桜蔭会研究奨励賞」「お茶の水女子大学研究奨励賞」の授与式が行なわれました。

桜蔭会研究奨励賞及び研究奨励賞は、本学の学部から大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程に進学した学生の中から特に優秀でかつ将来が嘱望されると認められる学生に贈られるもので、今年度から新たに卒業生組織である社団法人桜蔭会の助成により発足した制度です。今年度は桜蔭会研究奨励賞5名、研究奨励賞3名が受賞しました。

本学理事、斎藤桜蔭会会長及び学部長、研究科長等関係の教員臨席のもと、受賞者に郷学長から一人ひとりに賞状と奨励賞が手渡され、お祝いと励ましの言葉が述べられました。



お茶の水女子大学研究奨励賞 受賞者3名

大学院人間文化創成科学研究科 ライフサイエンス専攻1年 宮倉 玲子

まず始めに、研究奨励賞という素晴らしい賞を頂きましたことを大変嬉しく誇りに感じると共に、この場を借りて関係者の方々に深く感謝申し上げます。受賞に際し、食物や栄養の研究を通じて少しでも大学に貢献したいという思いが強くなりました。今後、本制度が学生の勉学に対する励みとなることを期待しています。

大学院人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻1年 米田 友里子

専攻は日本古典文学だと言うと、何の役に立つのかと否定的な意味で聞かれることがあります。実用的ではない、その上自分で創作するわけでもない、云々。しかし細かい反論はさておき、この度の受賞は、文学も無駄な学問ではないと認められているからこそだと、心強く思います。

知的好奇心は時に人間を滅ぼします。人生で得られる知識は、死がある以上確実に限られているからです。絶望の予感、しかし勉強は楽しいのです。研究し続けても、真理を手中にすることはないかも知れません。それでも東の間の一生を、できれば他人の人生、世界をも豊かにしたいと希って私は勉強するのです。

大学院人間文化創成科学研究科 理学専攻1年 松嶋 美佳

今回このような素晴らしい賞をいただくことができ、大変嬉しく思っています。私がこの賞を受賞できたのは、こつこつと努力してきた結果だと思っています。大学では時間があるので、何でも出来ると思います。後輩の皆さんは、その中で何か継続して頑張れるものを見つけてください。続けることは、後に必ず自分の自信になると思います。

お茶の水女子大学桜蔭会研究奨励賞 受賞者5名

大学院人間文化創成科学研究科 人間発達科学専攻1年 石田 素子

“Ask, and it will be given to you; seek, and you will find; knock, and it will be opened to you.” (Mat 7:7)

自ら目標を定め、それに向かって一生懸命挑戦してください。その結果は自分が望むとおりのものかもしれませんが、想定外のものかもしれません。いずれにしても、その結果に納得できるぐらいに最大限の力を尽くすことが大切なことだと思います。

大学院人間文化創成科学研究科 人間発達科学専攻1年 小林 肖

このたびは荣誉ある桜蔭会研究奨励賞を受賞できましたことを大変光栄に思います。

いまだ自らの未熟さを痛感するばかりですが、私が学部時代に心掛けていたことをひとつ挙げさせていただきますと、授業を大切にすることです。他学部の授業であっても興味のある授業には積極的に参加し、毎回の授業、先生方のひとつひとつのことばを懸命に理解し、自分の中で消化しようとしていた気がします。大学では、高校までの受け身の学びではなく、自ら積極的に考えるということが求められます。私は批判的に考えるということを非常に苦手としていますが、批判的、積極的に考えることを学び、習得していくためにも、学びの偉大な先人であらっしゃる先生方の授業は非常に重要です。といいますのも、授業では先生方がどのように物事を捉え、どのように考えようとしているのかということを感じることができただけでなく、物事を批判的に捉え、独創的に考えるためのヒントや手がかりが多く隠されているからです。まずは授業に積極的に取り組むことから始めて、疑問を持ち、自分の頭を通してよく考え、探求するという実践していくことが重要であると思います。

今回の受賞は、研究の世界へと一歩踏み出す大きな励みと勇気になりました。今後質の高い研究を目指し、ますます意欲的に学業に取り組んでまいりたいと思います。

大学院人間文化創成科学研究科 ライフサイエンス専攻1年 葛西 路子

この度は桜蔭会研究奨励賞を受賞できましたことを大変光栄に思っております。

大学4年時に研究室に配属され、自ら考えるということがとても重要で、しかも難しいことであると改めて感じました。授業に対する理解はもちろん、自由な発想力も必要です。投げ出したくなることもありますが、この賞を励みにこれからも研究に勤しみたいと思います。

大学院人間文化創成科学研究科 理学専攻1年 斎藤 真莉子

この春に桜蔭会研究奨励賞を頂くことができました。

私は現在福田研究室(化学)に所属しており、錯体化学の研究を行っています。研究を進めていく上で重要なのは、最後までやりとげる忍耐力、また新しいものに触れることで得られる自由な発想、創造力です。この度頂いた奨学金は、様々な学会や勉強会に参加したり、より良い環境で研究を進める上で役立てたいと考えています。

大学院人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻1年 上杉 奈央子

この度は名誉ある賞をいただき、大変光栄に思っております。私が学部で在籍していた音楽表現コースは、音楽の理論と実践の両方を学べるという特色があります。演奏専攻でも音楽学の充実した講義や徹底した論文指導を受けることができ、音楽に対する広い視野を養うことが可能です。私はピアノ専攻ですが、音楽美学の分野にも関心があり、修論に向けて勉強中です。後輩の皆さんにはこういった利点を存分に享受して、深い洞察をもった音楽家を目指していただきたいです。

奨学金受賞者決定

入学時成績優秀者奨学金・研究奨励賞・桜蔭会研究奨励賞授与式